

インナー大会プレゼン部門 2016 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学・学部・所属ゼミナール名（フリガナ）		
フリガナ） センシュウ	フリガナ） ケイエイ	フリガナ） フクハラ ヤスシ
専修大学	経営学部	福原 康司 ゼミ

※チーム名は参加申込書に記入した名称を記入してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	PPT 動画 （有・無）
フリガナ） チーム ディー	フリガナ） コウラ ナオキ	3	無
TEAM D	小浦 直貴		

研究テーマ（発表タイトル）

都市農業をもっと活発に

※必ず「企画シート作成上の注意」を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要（目的・狙いなど）

私達が考える研究テーマは「都市農家」であり、都市農家である川崎市の農家の方々の問題点を分析し、課題解決を提案する。

提案する内容は、川崎市に住んでおり自分の土地で再び農業を始めたいが、様々な問題点を解決できないがために行動を起こせない都市農家の人々を手助けするという内容である。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

今、日本社会は様々な問題を抱えている。私達の身の回りにも様々な問題が存在する。それらの問題の中から私達も何か解決できる身近な問題はないか？と考えた。この背景をもとに私達を取り上げたテーマが都市農業であり、川崎市の大学に通っている私達が、学生らしい視点から都市農家の現状分析を行った。

川崎市には、耕作放棄地や遊休農地など様々な利用されていない土地が存在する。そういった中でも、遊休農地に私達は焦点を当て、研究を行った。

川崎市の遊休農地の現状はというと、確かに市の様々な取り組みによって、遊休農地面積自体は減少してきている。

しかし私達がインタビューを行って分かった事は、減少傾向にある中でも、まだまだ川崎市にとって大きな課題とされており、近年では減少傾向も鈍化しつつあるということである。

3. 研究テーマの課題

川崎市としてはお金をかけて一部農地を整備しており、その農地では農業を行っていないと困るのだが、現在の農家側の後継者不足や高齢化や精神的な理由により将来農業を行っていない土地の減少ペースの停滞が意識される。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

都市農家によって作られた野菜のパッケージングや直売所の位置を示したマップの配置など、売上向上のために私たちが考察したプランを、主にNPO分類の中の第五項目である（農山漁村又は中山間地域の振興を図る活動）に分類される組織へ重点的に打診することで協力の承諾を得る。そのうえで川崎市が所持している市内の遊休農地についての情報を提供していただき、実際に農業を再開したいと考えている都市農家のもとへ赴き、学生ならではの視点での支援を試みる「Farm Consultant プロジェクト」の施行。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

川崎市都市農業振興センター農業振興課へのインタビューを行いました。内容としては、現在の都市農業の問題点や市としての役割や取り組み、今後の活動など。

6. 結果や今後の取り組み

今回私たちが提案したビジネスモデルを現実的にするために、NPO との連携をより強くし、フィールドワークを重ねていくことでさらに上質なビジネスモデルを確立する。また、川崎市主催の都市農業関連イベントに参加することで実際に経験を深める。

7. 参考文献

農林水産省 HP (<http://www.maff.go.jp>) 8/12

神奈川県 HP (<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f6843/>) 8/12

農林水産省「農地制度」 (<http://www.maff.go.jp/j/keiei/koukai/yukyu.html>) 8/18

神奈川県 HP「農業センサス」 (<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f6792/p978752.html>) 8/20

川崎市農業統計 (<http://www.city.kawasaki.jp/280/page/0000018615.html>) 8/22

関東地域における都市農業の動向と課題

(www.maff.go.jp/kanto/kihon/kikaku/jyousei/18jousei/dai1bu-zentai.pdf) 8/30

後藤光蔵（2003・5）「都市農地の市民的利用」日本経済評論社

蔦谷栄一（2009・1）「都市農業を守る」家の光協会

野田公夫（2011・9）「里山・遊休農地を生かす」農山漁村文化協会

斎藤保男（2013・11）「アグリ・ベンチャー」中央経済社

インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となります。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、3ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、3ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、「参加メンバー」の変更があった場合、上記「インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項」に記入してください。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HPなどに発表されていない）ものに限りません。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経BP社・日経BPマーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合は同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報記載はしないでください。